

授 業 科 目 名	教職実践演習 (幼・小)	教 員 名	河原 国男 渡邊 耕二	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	
授 業 形 態	演習	担当形態	オムニバス	卒 業 要 件	子ども音楽療育士	
科 目 番 号	ENS401	配 当 年 次	4 年次後期		小幼コース	必修
単 位 数	2 単位				幼保コース	必修
科 目	教育実践に関する科目（幼稚園及び小学校）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	教職実践演習					
一 般 目 標 到 達 目 標	教育職員免許法施行規則第6条第1項十一において、教職実践演習に求められるガイドラインに沿って、以下の到達目標を掲げる。 (1)教員としての使命感、責任感、教育的愛情等を理解している (2)社会性や対人関係能力を理解している (3)幼児児童生徒の理解や学級経営に関することを理解している (4)教科・保育内容等の指導力を理解している (5)その他、教員として求められる資質（学外活動や保護者とのコミュニケーション能力）を理解している					
授 業 の 実 施 に あ た っ て の 準 備 事 項 等	教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする」と規定されており、教職実践演習の担当教員とその他の教科に関する科目及び教職に関する科目の担当教員で本実習の内容について協議・決定することになっている。また、入学段階からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握（例えば、履修する学生一人ひとりの「履修カルテ」）を作成した上で、履修状況を確認し、教員として必要な知識技能を修得したかを確認することが求められている。					
授 業 の 概 要	本授業では、①使命感や責任感、教育的愛情等に関すること、②社会性や対人関係能力に関すること、③幼児児童理解や学級経営等に関すること、④教科・保育内容等の指導力に関すること等について、教員として最低限度の資質・能力を身に付けているかどうかを確認する。また、学校側の視点や意見を反映させるため、学校現場経験者による講話等を取り入れる。また、「履修カルテ」を参考に、個別に補完的な指導を行う。授業形態は、演習とする。アクティブラーニングとして振り返り、レポート等を取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	教職実践演習は以下のとおりに実施する。 第1回：河原国男（学部長）・渡邊耕二 オリエンテーション—教職実践演習の進め方について理解する。また、本演習で設定した到達目標に対する達成度について、学生は自身の学修の成果が記載された履修カルテ等を用いて振り返りを行い確認し、レポートとして提出する。（目標(1), (2), (3), (4), (5)） 第2回：城戸佐智子 幼児・児童理解と集団活動づくりについての講話を踏まえグループ討議を行い、現状と課題・解決策等についてレポートとして提出する。（目標(3)） 第3回：外部講師 服務規律についてと教員のメンタルケアのあり方に関する講話を踏まえ、将来教員として採用された後の情報としてレポートにとりまとめ提出する。（目標(1)） 第4回：河原国男 教職の意義や教員の役割についてグループ討論・ロールプレーイングを行い、振り返り・確認する。その結果、改善点等をあればレポートとして提出する。（目標(1)）					

	第5回：未定 小学校英語教育の現状と課題。教科としての「英語」が小学校に導入されることで、教員 にはどのような英語力が求められているか。またどのように準備すべきか。オリエンテーション時に配布した資料をレポートとして提出する。(目標(4)) 第6回：未定 保護者・住民との人間関係づくりについての講話を踏まえグループ討議を行い、現状と課題について確認を行いレポートとして提出する。(目標(1), (2)) 第7回：杉田康之 学級経営案づくりに関する講話を踏まえ、グループ討議を行い、教育実習における経験等を振り返り、今後学級経営に関する改善点としてレポートにとりまとめ提出する。(目標(3)) 第8回：渡邊耕二 指導案作成に関する講話を踏まえ、教育実習等の経験や振り返りを行い、さらにグループ討議を行い、自分の改善点等を明確にする。(目標(4)) 第9回：外部講師 生徒指導・教育相談と教員の役割に関する講話を踏まえ、教育実習における経験を行い、改善点等あればレポートにとりまとめ提出する。(目標(3)) 第10回：外部講師 障害児のいる学級づくりに関する講話を踏まえ、現状と課題、解決方策等をレポートとして提出する。(目標(5)) 第11回：外部講師 外国語(英語)の指導力に関する講話を踏まえ、自分の振り返りを行い不足点を確認の上、今後どのように取り組むかなどをレポートとして提出する。(目標(4)) 第12回：坂倉真衣 幼小接続の観点と総合的な学習の時間について(環境教育等をテーマとして)の講話を踏まえ、自分の改善点等を明確にする。(目標(5)) 第13回：外部講師(宮崎県における教員採用試験合格後の「小学校新規採用教員の心構えと初任者研修」について講話を踏まえ、自分の教員としての素養について振り返りを行い、不足点等を明確にする。(目標(1), (2), (3), (4), (5)) 第14回：外部講師 学修指導要領においてICT活用と授業づくりが明記されていることから、宮崎県におけるICT教育の現状と課題を知り、今後の自分のICT教育における可能性を理解する。(目標(3), (4)) 第15回：河原国男(学部長)・渡邊耕二 資質能力の確認について、履修カルテを再度確認する。学生個々に振り返りを行い不足する点、満足する点などを明確にするなどとりまとめを行う。(目標(1), (2), (3), (4), (5))
履修条件・注意事項	受講者数： 1)最大限50人(受講者数については、入学後のコース選択の結果により変動する) 2)本授業科目の趣旨並びに授業効果を確保する観点から、演習形式の授業では、必要に応じて最大限10人ずつの5グループ編成を基本とする。
教員の連携・協力体制	演習の講師は、教職担当河原教授と教科担当渡邊教授を中心に授業計画を作成し、教職課程の履修履歴を把握しているアドバイザー教員の参画と学校現場の視点を取り入れる観点から教育委員会指導教諭や現職教諭の協力を得て実施する。
学生に対する評価	レポート・自己点検シート・履修カルテ(100%) なお、レポート等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。

時間外の学習について	毎回の講義では、事前学修として、講義前に配布されたプリントや指示された教科書・参考書を読み、重要な個所についてマークするなど事前に把握・勉強しておくこと。また、事後学修として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行い、不足する知識や技能は確認の上、必ず補うこと。また、今までの授業との関連性についても常に把握・理解しておくこと。
テキスト	各担当教員が用意する資料を使用（学生はファイルして保管）
参考書・参考資料等	『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』（中教審答申 平成24年8月） 『生徒指導提要』（文部科学省 平成22年3月） 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』 『幼稚園教育要領（平成29年告示）』『幼稚園教育要領（平成29年告示）解説』 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』（各教科、領域等）
担当者からのメッセージ	4年間の総決算であることを自覚し、不足している知識・技能を補う努力をすること。また、教員としての責任に鑑み、常に真剣に取り組むこと。
オフィスアワー	- 河原国男：水曜日13：00～14：30 その他の日時は、メール等でアポイントを取って来室すること。 - 渡邊耕二：木曜日16：20～17：15 - その他の担当教員について、各教員のオフィスアワーを確認の上、アポイントを取って来室すること。